



別売品や幹旋品を使用した据付方法

1. 据付棧 (RB-I01K2 または RB-I02K2)

回り線と鴨居を利用する場合

据付棧 (別売品) をお使いください。

- 据付棧上・下を回り線下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付棧と同様の取付ねじ (φ4×10L) で据付板を仮止めします。
- 仮組みした据付板と据付棧を②据付板取付ねじ (φ4×25L) で回り線と鴨居へ固定します。
- 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
- 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めしてください。

取付ねじ(φ4×10L)(据付棧と同様)

②据付板取付ねじ

回り線

据付棧上

据付棧調整寸法 410~730mm

垂なる部分

据付棧下

鴨居

お願い

- 据付板を据付棧上と据付棧下が垂ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付棧下の裏から止めてください。(六角ナットはRB-I01K2、RB-I02K2に同梱しています。)
- 据付棧は上と下を使用し、据付板取付ビット (型紙に記載) で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

据付棧 (別売品) は、②据付板取付ねじ (φ4×25L) にて回り線と鴨居に固定してください。

2. アース棒 (RB-Y12)

室外ユニットからアースを行う場合

アース棒 (別売品) をお使いください。

アースねじ (カバーの中にあります)

アース棒

3. 配管化粧カバー

配管化粧カバーを配管接続口に取り付けますと、きれいな仕上がりとなりますので、ご利用ください。

ドレンホースの取り出しのため、下図のように配管化粧カバーの片側を、ハサミ等で切り欠きます。

切込み 50mm

50mm

20mm 切り欠き

カバーの先端部はビニールテープ巻きます。

配管化粧カバー

ドレンホース

幹旋先: 東芝コンシューママーケティング(株)

部品名: フリールコーナ

型番: SF-66-500 SF-77-500 SF-66-1000 SF-77-1000

据付工事完了後、必ず実施してください

試運転

- 電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認します。
- 「自動運転・リセット」ボタンを10秒以上押しと「ビッ」と音が鳴り、強制冷房運転になります。約3分後に運転を開始します。運転を始めないときは、配線を再確認してください。
- 試運転を停止するときは、「自動運転・リセット」ボタンをもう一度押します。
- リモコンのボタンを押して、リモコンでも運転することを確認します。

3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。これは本体保護のためで故障ではありません。

室外ユニットが運転せず、運転・タイマーランプが点滅する

- Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。
- 電源電圧が100Vになっている可能性があります。電源電圧の確認をお願いします。

エアコンが誤動作する

- 同じ部屋または、近接する部屋に2台室内ユニットを設置したとき、1台運転をするときに2台同時にリモコン信号を受信し、運転してしまうことがあります。このような場合どちらか一方の室内ユニットとリモコンを、B設定 (工場出荷時は、どちらもA設定です。) にすることで誤動作を防ぐことができます。
- 室内ユニットとリモコンの設定が異なる場合は、リモコンの信号を受け付けません。

1. リモコン側の設定

リモコンはB設定の場合のみ「B」と液晶表示されます。「A」の表示はありません。

- 乾電池を入れて、先の細いもので「リセット」ボタンを押してください。
- 先の細いもので「点検」ボタンを押します。(表示が「00」になります。)
- 「点検」ボタンを押したまま、「運転切換」ボタンを押すと設定温度表示部の右に小さく「B」が表示されます。(「A」に戻す時は、「リセット」ボタンを押してください。)

2. 室内ユニット側の設定

- B設定したリモコンの「運転切換」ボタンを押して「冷房」を選択します。
- 室内ユニットの「自動運転・リセット」ボタンを約1秒押します。
- B設定したリモコンの「運転/停止」ボタンを押して冷房運転をします。(室内ユニットはB設定となります。)
- リモコンの「運転/停止」ボタンを押して停止します。(B設定したリモコンの運転切換表示が「暖房」で運転したとき、室内ユニットはB設定となりますが、室内ユニット表示部のすべてのランプが消灯することがあります。この場合、「運転切換」ボタンを押して「暖房」を選択し、室内ユニットの「自動運転・リセット」ボタンを押したまま (10秒未満)、「運転/停止」ボタンを押して暖房運転をしてみてください。)

3. 動作確認

- 変更したリモコンで室内ユニットが運転することを確かめてください。

こんなとき

冷媒を補充する

- 冷媒の補充には、電子はかりなどを使用して、ポンベの液相から徐々に補充してください。
- 冷媒ポンベがサイホン管なしの場合は、ポンベを逆さにして補充してください。

サービスバルブ操作上の注意

サービスバルブ操作上の注意	
弁種	閉付けトルク
弁種	閉付けトルク
H17	14~18N・m(1.4~1.8kgf・m)
H19	
H21	33~42N・m(3.4~4.3kgf・m)
H27	
チーゴ口 H17	14~18N・m(1.4~1.8kgf・m)

据付後の取りはずしかた (移設時など)

室内ユニット

室内ユニット下の「PUSH」を上押ししながら手前に引きます。

室外ユニット

地球環境保護の観点から、ポンプダウン (冷媒回収) をしてから取りはずします。

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- 冷房サイクル内に空気を混入させない
- サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす
- 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷房サイクルが異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

警告

- ポンプダウンのしかた (移設時など)
 - 室内ユニットの「自動運転・リセット」ボタンを約10秒押します。(ノビッと音がして強制冷房運転が始まります。)
 - 5分~10分後に液側サービスバルブの弁種を開めます。
 - さらに2分~3分冷房運転後、ガス側サービスバルブの弁種を開め、運転を停止します。
 - 液側とガス側の接続配管を取りはずします。

既設配管再利用時のご注意

- 古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- 配管内厚が0.8mmあること。(JIS規格の配管)
- フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変更が必要です。
- ポンプダウンができないとき、配管が繊維に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 施工にはR32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などが無いか点検してください。
- 配管以外の部材 (断熱材や配管支持材など) も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。

お願い

*冷媒を補充するときは、必ず液冷媒で補充してください。

お願い

冷媒を補充するときは、必ず液冷媒で補充してください。

液側 サービスバルブ

ガス側 サービスバルブ